

2025年度以降の事業の実施方針について

1. 概要

カムイワッカ湯の滝利活用検討事業は、落石の危険性から立入禁止措置がとられてきた湯の滝1の滝以奥（上部区域）について、自然環境の保全と利用上のルールを定めた上で再利用を目指すものである。

本事業では、2021年から2024年の4年間にわたり、試行事業や調査事業を通じて、利用者および現地管理に関する各種データの収集と分析を行い、本格運用に向けた利用のルールの策定および管理運営体制の検討・構築を進めてきた。

今年度（2024年）をもって試行期間は満了することから、次年度（2025年）以降の事業の取り扱いについては、試行事業の結果を踏まえ、改めて検討する必要がある。

2. 試行事業の結果の総括

事業計画（カムイワッカ湯の滝利活用検討事業計画）においてあらかじめ整理した、調査・検証項目をもとに、4年間の試行事業の結果を整理した。

（1）事業の経緯

年度	概要	事業期間	対象区間
2021 1年目	試行Aは引率利用のみ、試行Bは一般利用を対象としてそれぞれ期間を分けて実施。	A:7月1日～7月20日 B:10月2日～10月4日	上部区域のみ (下部区域は自由利用)
2022 2年目	観光船事故の影響により当初予定を変更し、事業期間を大幅に縮小し、試行Bのみ実施。検討期間を1年間延長。	B:9月30日～10月2日	上部区域のみ (下部区域は自由利用)
2023 3年目	期間と区間を大幅に拡大。下部区域の自由利用を廃止し、全域を有償の事前予約制。オンライン予約システム導入。	AB共通: 7月1日～10月1日	全域
2024 4年目	2023年度の事業枠組みを踏襲しながら、収支の均衡、安全対策の向上などに取り組んだ。	AB共通: 7月1日～9月30日	全域

（2）調査・検証項目に基づいた自己評価

◎達成（実施）できた ○おおむね達成（実施）できた/今後達成見込みである

△課題が多く継続した検証が必要 ×達成の見込みなし/未検証

調査および検証の観点		評価	調査の実施状況/評価に対するコメント
1 事業主体や実施運営体制			
1-1	事業主体や事業体制の確立	△	<ul style="list-style-type: none"> ・2023～2024 の 2 か年で、恒常的な事業の実施体制と地域内での役割分担を確立。関係諸機関の合同での運用体制に道筋。 ・事業主体は並列した状態で明確化していない。事務も分散しており、本格実施に向けては不安含み。
1-2	事業運営経費の自律化	△	<ul style="list-style-type: none"> ・2023 年に大型の補助金を獲得し、投資的な事業はほぼ実施済み。運営安定化のための基金も創設。 ・2024 年度事業は単年度では 700 万円程度の赤字が発生しており、収支均衡、自立化は未達成。
2 管理運営方針・基準			
2-1	供用区域や立入禁止区域の適切な設定	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・4の滝までの利用区間の供用を4年間継続。立入禁止区域などの設定も固定化しており、大きな事故などは発生していない。 ・5の滝までの利用ニーズは強い。
2-2	開閉基準の明確化	○	<ul style="list-style-type: none"> ・増水、落石、ヒグマ等のリスク要因の洗い出しがほぼ完了し、これに対するデータの蓄積、定性的な開閉基準が確立。 ・定量的な開閉基準の策定については、引き続き進める必要あり。
2-3	巡回、監視等の現地管理体制の構築	○	<ul style="list-style-type: none"> ・現地の人員配置を継続し、3名体制での業務オペレーションが確立。 ・常時配置の人員確保、費用負担は今後も課題。
2-4	救護・救援体制の構築 通信体制の構築	○	<ul style="list-style-type: none"> ・衛星通信による常時連絡体制が確立し、通信体制は大幅に向上。拠点施設との連絡体制も確立し、バックアップ体制も整いつつある。 ・一次救護に対する現地補助員のスキル向上は今後も必要。
3 利用者サービスや利用制度の確立			
3-1	情報提供や事前予約、立入手続き等の受入体制構築	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・専用の Web サイトと予約決済システムを 2023 年に整備。外国語対応も充実化し、レクチャー動画による事前のリスク承認の仕組みも整備。 ・装備のレンタルなども充実化したが、実施場所の検討やオペレーションの洗練化は継続した改善が必要。
3-2	ツアー参加者満足度／潜在的ニーズの把握と向上	○	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の結果などから満足度は極めて高いことを確認。制度周知やプロモーションについては継続的な取り組みが必要。
3-3	ガイド等による引率要件の整理と技能向上	△	<ul style="list-style-type: none"> ・2023 年度からガイド利用と個人利用を並列した運用形態が確立。 ・引率型の利用割合は10%以下。また、ガイドの要件等については引き続き検討が必要。

4 モニタリングとデータの収集			
4-1	利用者の動態（滞留時間など）の把握	△	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度に小型GPS端末を用いた行動調査を実施し、湯ノ滝内での行動や滞在時間を調査。 ・車両の入込みやカムイワッカ地区全体の入り込みについては、実測調査が久しく行われておらず、実態が不明。 ・制度を知らずに訪問する来訪者への対応、公共交通の整備、マイカー規制などの乗り換えシステムのあり方については今後の検討課題。
4-2	利用者のアンケートによる意識調査の実施	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・試行事業期間中、継続的に利用者アンケート調査を実施。満足度や危険性の認知度、制度への支持態度などを経年的に把握。
4-3	専門家による地質的評価	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・試行事業期間中、地質の専門家による合同調査を年1~2回継続。大規模な落石や斜面変動が発生していないことを確認。 ・簡易的な定点モニタリングも2024年から開始。

3. 今後の湯の滝事業における中期方針

カムイワッカ湯の滝利活用検討事業（試行事業）は、3年目から新方式を導入し、4年目も引き続き同様の方式で運用を継続したが、概ね計画どおりの結果・成果となった。しかし、恒常的かつ安定的な運用体制の確立には至らず、さらにカムイワッカまでのマイカー規制をはじめとするアクセス面の課題が残るなど、今後の運用には課題も多い。

今後の湯ノ滝事業における中期的な方針としては、まず与件整理を通じて課題や条件を明確化し、課題解決に向けた構想づくりを進める。その構想に基づく取り組みをこの先3年間で進めるとともに、以下の重点項目を中心に実施していく。

（1）事業主体の整理と恒常的な運営体制の構築

引き続き、カムイワッカ協議会を事業主体の核として位置づけ、必要に応じて構成員、規約等の見直しを行う。現行では、運営に係る諸事務を分散して処理されていることが課題となっており、事務局体制の見直しが必要である。具体的には、企画運営、総務経理、危急時対応、地域や顧客とのコミュニケーション、現場との密な調整などの機能を統合し、常設の運営事務を一括して委託する体制を検討する。

（2）収支均衡の実現

事業費の収支均衡を図り、安定的な経営体制を構築する。

収入内訳については、利用者負担を主としつつ、車両規制や安全管理、オーバーツーリズム対策などに係る一部経費は、負担金や補助金の活用など公的負担で賄う。

年間の事業費については節減を徹底し、現行よりも圧縮するとともに、収入以下に抑えることを目標とする。また、利用者負担による収入は変動が大きいため、急な情勢変化や収入減に備え、基金の充実を図る。

（3）利用制度の確立

レクチャーや予約システム、利用上限、客観的な開閉基準、現地管理の体制、引率者（ガイド）等の取り扱いについては、引き続き検証を重ね、整理・改善を図る。

事業用地の取り扱いについては、貸借契約の期間を複数年（最大3年）とすることを想定し、北海道森林管理局と協議を継続する。

（4）安全管理の充実化

気象情報や落石等のリスクに関するデータ収集を継続しつつ、カムイワッカ湯ノ滝のぼりをより魅力的にするとともに、受傷等のリスクを低減させる方策を検討する。

（5）ガイド等による引率要件の整理

現在のガイド引率型の要件は、知床ガイド協議会への所属や、協議会主催の事前説明会および研修会への参加等を要件としているが、ガイド引率型の利用促進を図るため、要件の見直しを行う。

（6）公共交通とアクセスの検討

カムイワッカ湯の滝の現地利用が予約制となったことにより、従来のマイカー規制の位置付けが抜本的に変化した。また、道路工事の進捗に伴い、今後の利用環境が変化する公算が高い。

そのため、マイカー規制とカムイワッカまでの公共交通のあり方について、ホロベツ－五湖－岩尾別温泉地区を含めた総合的な検討を行う。

4. 2025年度のカムイワッカ湯ノ滝のぼり事業計画（骨子）

(1) カムイワッカ湯ノ滝のぼり

項目	2024年度	2025年度（案）	備考
期間	7/1(月)～9/30(月) 92日間	7/1(火)～9/30(火) 92日間	6月：融雪期 10月：道路工事
対象	健脚の方 リスクに同意できる方 ヘルメット着用	同左	
エリア	4の滝まで	同左	
人数	1時間30名×7時間枠 の1日210名。 シーズン最大19,320名。 (ガイド利用枠除く)	同左	
料金	マイカー利用期間 大人2,200円,子供550円 シャトルバス利用期間 大人3,000円,子供750円	同左	
申込方法	専用予約サイトによる予約 決済。先着順。当日1時間 前まで。クレジットカード のみ。90日前から予約受 付。キャンセル規程。	同左	
その他	リスク同意 レクチャー動画視聴など	同左	
ガイド要件	事業趣旨同意 ガイド協議会所属 調査協力・研修参加 賠償保険加入 他	同左	

※ 太枠部は本部会で確定したい。

（2）交通・アクセス**－ 1）シャトルバス運行（マイカー規制を伴う）**

項目	2024年度	2025年度（案）	備考
期間	8/9(金)～8/18(日) 10日間	8/8(金)～8/17(日) 10日間	
区間	知床自然センター ～カムイワッカ (※知床五湖を経由しない)	同左	
運行本数 ・間隔	11往復 45分に1本	同左	

※ 太枠部は本部会で確定したい。

－ 2）路線バス増便事業

項目	2024年度	2025年度（案）	備考
期間	8/11(日)～8/15(木) 5日間	8/10(日)～8/14(木) 5日間	
区間	知床自然センター ～知床五湖	同左	
運行本数 ・間隔	12往復 30分～1時間に1本	同左	

（3）知床ディスタンスキャンペーン

検討中（次回提示）

5. カムイワッカ園地の利用のあり方

令和元年度の国立公園計画改定に伴い、カムイワッカ園地の区域が変更となって以降、園地事業決定調書に基づく整備計画等は執行されていない状況にある。直面する課題としては、カムイワッカゲート移設により、カムイワッカ展望台や硫黄山登山口付近への車両進入が増加し、混雑が想定される点が挙げられる。そのため、オーバーツーリズム対策を主軸とし、知床国立公園全域での利用分散を図るための利用拠点整備が必要と考える。

また、カムイワッカ園地においては、地質や歴史といった潜在的な資源の活用、さらに登山やトレッキング、沢登りなどアドベンチャーツーリズムの拠点化を進めることで、園地全体の魅力向上を図る為の再整備が求められる。

再整備に向けた検討に際しては、まず協議会事務局と北海道森林管理局で協議を進め、その後、当部会における協議を経て、適正利用エコツーリズム検討会議で承認を得ることを念頭に置く。

6. 今後のスケジュール

2024年12月	事業期間の告知開始
2025年2月	第23回カムイワッカ部会 事業計画（案）の協議・決定
2025年2月20日	エコツアーリズム検討会議 本会議結果を報告、及び、計画(案)を提示
2025年3月	事業詳細の告知開始
2025年4月	予約受付開始
2025年5月下旬	地質専門家による現地調査
2025年6月	カムイワッカ地区利用適正化対策協議会 予算計画、運営詳細の審議等
2025年7月1日	事業現地運営開始

		2024年度 (R6)					2025年度 (R7)							
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
道道知床公園線 (五湖ゲート～カムイワッカ)		← 冬期通行止め					← 5/30(金)11:00～10/1(水)11:00 (見込)					← 工事のため閉鎖 冬期通行止め		
カムイワッカ 湯の滝	湯ノ滝のぼり事業	← 詳細検討		← 予約受付 事業準備			← 7/1(火)～9/30(火) (92日間)					← 検証・まとめ		
	マイカー規制 ワッカアクセス方法	← 周知広報			← マイカー利用 (バス運行なし)		← バス 規制		← マイカー利用 (バス運行なし)					
		← 8/8 (金) ～8/17 (日) 10日間 規制区間：五湖ゲート～カムイワッカ												
自然センター～知床五湖 路線バス増便								← 5日間 8/10(日) ～14(木)						
知床五湖ゲート 警備員配置						← 7/19(土) ～21(月)		← 8/8(金) ～17(日)		← 計13日間				
硫黄山 登山道の利用							← 5/30(金)～10/1(水) (道路特例使用期間)							
部会・協議会		★ ★ 第23回 ワッカ部会 第2回 エコフ会議		★ ★ 協議会 現地調査								★ 第24回 ワッカ部会		